



JIC インフォメーション

第 174 号 2013 年 01 月 10 日

年 4 回 1・4・7・11 月の 10 日発行

1 部 500 円

発行所: JIC 国際親善交流センター 発行責任者: 伏田昌義

<http://www.jic-web.co.jp>

東京オフィス: 〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-14-8 YPC ビル 7F TEL: 03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp

大阪・ロシア留学デスク: 〒540-0032 大阪市中央区天満橋京町 2-13 ワキタ天満橋ビル 812 号 TEL: 06-6944-2341

ロシア
旧ソ連
国際
交流
誌

はりねずみのジェーニャ



あけましておめでとうございます

ジェーアイシー

本年も JIC をよろしく願いいたします!!

С Новым 2013-ым Годом!!



-新年号はJICスタッフの挨拶文です-

<http://www.jic-web.co.jp>

— 冬のバイカル湖 —

JIC スタッフより新年のご挨拶

「あけましておめでとうございます!!」・・・・・・・・・・2-16P

JIC 情報・・・・・・・・・・16P



JIC では、Jクラブ(JIC 友の会)会員を募集しています。
年 4 回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

JIC スタッフより新年のご挨拶



あけましておめでとうございます!!

本年も JIC 国際親善交流センター及びジェーアイシー旅行センターを
よろしくお願い申し上げます。

求めよ、さらば与えられん

この原稿を書いている時点では、年末総選挙が始まったばかり。まだ選挙結果を知りませんが、おそらく「政権交代」の期待を背負って登場した民主党政権が期待はずれで退場し、再び「政権交代」が起こっているに違いありません。第三極を標榜する新政党は言葉だけが勇ましくて実際の政治手腕はまだ未熟の観を免れません。日本の政治はいましばらく停滞し、再編成にむけた模索の時期が続くのでしょう。

とはいえ、現実の生活はつづきます。とくに経済活動は、天気が悪かろうと、政治が混乱しようと、1 日も休むわけにはいきません。私たちは、旅行業を基盤にして日々の生活を維持し、日露の交流活動を今年も継続します。

昨年末には、2 年がかりにおよんだ福島原発事故の風評被害に対する東京電力への賠償請求により決着のメドがつかしました。11 年 3 月 11 日以後、ゼロに落ち込んだロシア・旧ソ連からの訪日客は 2 年近くたってもまだ完全には回復していませんが、東電の補償を勝ち取ることで、被った損失のかなりの部分を回収することができそうです。東電への賠償請求の過程で、「自ら闘うものだけが結果を手にすることができる」という、当然と言えば当然の単純な真実を実感しました。

福島原発事故を受けて、政府が定めた訪日外国人客を扱う旅行会社の風評被害への補償基準(いわゆる「中間指針」)は、「11 年 3 月 11 日までに予約されていた外国人客で、原発事故によって同年 5 月末までにキャンセルされた分についてののみ補償対象とする」という、旅行業の実態を無視したまったくひどいものでした。そこには 3 月 11 日以降に入ってきたであろう多数の予約が原発事故によって控えられ実現しなかった、本当の意味での風評被害はまったく考慮されていませんでした。私たちは、自民党、民主党、公明党の国会議員に働きかけ、事故補償を所管する文部科学省、環境省の担当者とも話し合いを持ち、「中間指針」の見直しを要求しました。しかし、誰もが気の毒がってはくれるものの、本気の対応はしてくれず、結局、その基準を変えることはで

きませんでした。

それでも、私たちはまずは中間指針の枠内で第一次賠償請求を行い、一定額の補償を受け取って糊口をしのぎました。そして、昨年 2 月末、わが社を含む JATA(日本旅行業協会)所属の 12 社が共同で、中間指針の範囲ではカバーされなかった風評被害の賠償を求めて、政府の紛争解決センターに提訴しました。弁護士同士の書面のやり取りが 1 年近く続くという単調な交渉ではありましたが、風評被害の範囲を 2011 年 10 月末まで拡大して逸失利益を計算し直し追加補償するという和解案が紛争解決センターから示され、合意に至りました。この新基準は、今後、訪日外国人客を扱う旅行会社全体に適用されることになります。私は、共同提訴した一員として、この新基準獲得の闘いに参加できたことを誇りに思うものです。困難な状況の中でも JIC を支えつづけてくれたスタッフ、関係取引先、ロシアの友人たち、旅行・留学のお客様、すべての皆さんに感謝いたします。

「自ら闘うものだけが結果を手にすることができる」、「本気で闘うのは当事者以外にありえない」、「誰かが何とかしてくれるという考えを捨て、自ら泥まみれで闘うものだけが、結果はどうあれ一歩前へ進むことができる」。

つくづくそう思います。このような意識が広く拡大し、人々が自らの切実な問題を掲げて、果敢に行動を始める時、日本の政治と社会はよりよい方向に変化を始めるに違いありません。私もそのような行動する市民の一人として、旅行業とロシア語留学をベースに、これからも日露交流に取り組んでいきたいと思っています。

話は変わりますが、モスクワの取引先であり同時に気心の知れた年来の友人でもあるリュドミラ社長と、昨年 11 月に出雲と屋久島に行ってきました。日本には私たちがまだ知らない魅力が一杯あります。とくに今回は、松江の佐太神社で見た「神去出神事」(かむさでしんじ、毎年 11 月 25 日/神在祭に全国から集まった神様を、真夜中に山に登って静かに見送る神事)が印象的でした。提灯をともして、夜の山道





佐太神社の神去出神事にて(右、リュドミラさん)



屋久島にて、ウィルソン株の前で

を、列をなして黙々と歩いた気分は何とも形容しがたいものでした。100 年前にラフカディオ・ハーン(小泉八雲)が魅入られた出雲の不思議な世界は、21 世紀の今日も脈々と生き続けていたのです。私は神秘主義者ではありませんが、このような神事が存在することを知っただけでも、大きな収穫でした。

「ロシアの友人やお客様に日本をもっと深く広く紹介したい」、「日本人にロシアの雄大な自然と奥深い文化を見せたい、知らせたい」、これも私が JIC の仕事に取り組む原動力となっています。

昨年は、ロシアのキーロフ十字架行進に参加し、出雲と屋久島の神秘的な世界を見てきました。今年は、さらに何か新しい体験をしてみたいと思っています。

ジェーアイシー旅行センター(株)代表取締役
JIC 国際親善交流センター副会長
伏田昌義

ロシア極東あれこれ ～注目を集めたウラジオストクの 1 年～

ウラジオストク航空がながらく新潟発着であった定期便の運航を一念発起して、成田ーウラジオストク便、成田ーハバロフスク便を就航させたのが一昨年 2011 年 3 月末のこと。それからわずか 1 年。アエロフロート・ロシア航空(SU)がウラジオストク航空を事実上、買収し上記の運行を引き継いだのにあわせ、ロシア国内線では最大手のシベリア航空(S7)が昨年 2012 年春より同路線に週 2 便を就航させることを決定、各区间を 2 社で合計週 4 便が運航される状況となりました。

一方、ウラジオストクでは昨年 9 月 8、9 日の 2 日間、ロシアが初めて主催国となる APEC 首脳会議が開催されました。ロシア政府がそれにあわせ開発計画を承認したのは 2007 年 8 月。ウラジオストク本土のすぐ南に位置するルスキー島を APEC 会場と定め、わずか 5 年で世界最長の斜張橋となる全長 1,885m のルスキー大橋、1104m の金角湾横断橋、空港新ターミナルの建設と市内への高速鉄道などをいっきに完成させてしまいました。とても日本では考えられないスピードです。残念ながら APEC にあわせて開業しようとした 2 つの高級ホテル「ハイアット・ウラジオストク・ブルヌイ」、「ハイアット・リージェンシー・ウラジオストク・ゴールドエン・ホーン」は間に合わず完成は今年中になるそうですが。

かつて軍港で閉鎖都市だったウラジオストクが完全開放されたのが 1992 年。JIC はその前年 91 年に青年交流の団を組み、初めてウラジオストクへソ連の客船「オリガ・サドフスカヤ号」で直接入港しました。当時ロシア査証は発行された紙片を旅券に挟む込むスタイ



ウラジオストク 高台からの展望

ルで訪問都市名が記載されていました。しかし、在東京ロシア大使館・領事部で発給された査証には隣の港湾都市ナホトカとあるのみでウラジオストクでの入国が本当にできるのか、不安を抱えての船旅だったことを記憶

しています。

あれからすでに 20 年。日本からの空路も整い、様々なホテルやレストラン、ファーストフードの店もたくさんできて当時と比べると外国人にとってずいぶん親しみやすい街になりました。しかし未だに日本からロシア極東方面への年間の旅行者数は、詳しいデータはありませんが、2 万から 3 万人前後ではないかと思われます。

今年に向けてウラジオストク市はロシア政府に対して空路で入国する外国人を対象に 72 時間以内滞在のビザ免除の実施を申し入れているそうです。実現すれば通常のウラジオストク・ツアーの滞在期間 3 泊 4 日がカバーされることになります。ぜひロシア極東と日本との交流が次の一步を踏み出すきっかけになればと願います。

JIC 東京 杉浦信也

ワラジのお話

明けましておめでとうございます！

昨年は弊社のインバウンド部門にとって様々な意味で「再スタート」の年となりました。原発事故の風評が徐々に薄れ、以前のような勢いではないがお客さんが確実に戻ってきています。そして「下見」という名目で毎年やっている日本各地の旅は昨年も続き、忘れられないものとなりました。今回は「芸術アイランド」の直島を初め、鳥取、出雲、屋久島などを回りました。特に強烈な印象として残ったのは、鳥取県三朝温泉近くにある、三徳山の三仏寺へのお参りでした。

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、三仏寺の「名物」は三徳山(みとくさん、標高 900m)の奥にある、投入堂(なげいれどう)です。投入堂は、垂直に切り立った絶壁の窪みに建てられた、他に類を見ない建築物で、国宝に指定されています。古の時代から山伏や山岳信仰の信者がなぜここを修行の場として選んだのか、登り始めた途端、分かったような気がしました。

三仏寺では他の寺と違って、入山しようとする者が服装や履物の厳しいチェックを受けます。「登山



に不向き」と判断された場合、許可を出さない場合もあります。当日、私はスニーカーを履いていましたが、それを



見た坊さんが即刻「これじゃ許可出せん」と言い放ちました。雨が降った直後だったので地面が滑りやすくなっており、ちゃんとしたトレッキング靴でないとだめだったようです。私と同じように、スニーカーを履いている入山希望者が多数で、中にはスカートにハイヒールという場違いな「山ガール」まで…。こんな「参拝者」の為には寺がワラジを用意しています(一足 500 円)。仕方なく私もワラジを購入しました。サイズなんてものではなく、どれを手にとっても私の足の 7 割程度しか覆えないものでした。

「ものは試し」と、気合を入れて履き、さっそく登山開始。そして 5 分もしない内にワラジと足が冷たい山水でびしょり。歩き始めて 10 分、足の感覚がなくなりました。しかし、これはほんの「始まり」に過ぎませんでした。気がつくとも目の前に絶壁に近い岩が連なり、木の根をよじ登ったり、裸の岩をロッククライミングしたり、鎖を伝って巨石を上がったりと、びっくりするような試練が次から次へと訪れていました。難所の連続にも関わらず、一度も怪我することなく目的地に辿り着いたのは、すべてあの不細工なワラジのお陰でした。皆さん、覚えて下さい。ワラジは、す・べ・り・ま・せ・ん!!! 不思議なぐらい、滑りません。山水でよれよれになっても、きつい山道でぼろぼろになっても、最後までいい仕事をします。

投入堂を目にした時、私は深い感動に包まれました。不思議な建物、不思議な空気、不思議な場所、そしてたった一足のワラジを履いて辿り着いた不思議な自分が、間違いなくそこにいました。

その瞬間、坂本龍馬の名台詞が頭をよぎりました。

「我が成す事は我のみぞ知る」。

何百年も前に道なき道を這い、不可能に近い場所で、後世の人を圧倒させる物を作った人がいました。たった一足のワラジで。

自分で作り上げていた様々な「限界」が崩れる音がしたような気がしました。複雑に悩んでいた問題も驚くほどキレイに整理され、視界が開けました。覚悟を決め、志を貫徹、限界なんてものはありません。必要なのは信念、行動力そして…たった一足のワラジです。

よいお年を！

JIC 東京 モロゾフ・デニス

若者よ、旅に出よう！

あけましておめでとうございます。

私事ですが、昨年10月に三男が誕生し、我が家は更ににぎやかになりました。少し年の離れた弟ができたことで、5歳、4歳の年子の兄たちにも、しっかりせねば、という自覚が芽生えたようです。特に次男は、自分より弱い弟を守ってあげたい、という気持ちになったおかげか、ぐっと成長した感があります(ママを取られたようなさみしさもあるようですが)。人間は、相対する存在を感じることで、自分を見つめて成長できるという証左のようです。

ところで、私のこれまでの人生にとっての最も大きな転機



は、学生時代のロシア・モスクワへの留学でした。1992年4月から1993年3月までの間ですから、ちょうど20年も前の事になります。前年12月をもってソ連邦が崩壊し、新生ロシアとなつての初めての年にあたり、経済の混乱とハイパーインフレ、それに伴う治安の悪化と、激動の中での1年間の留学生活でした。ロシア語を身に付け、見聞を広め、そし

て多くの友人と親交を結び、と、留学で得たものは数多くありますが、旅立つ前にはあまり気付かず、得られたことがあります。それは、日本から離れ、自分とは異質な人々、異質な環境に身を置क中で、日本人としての自分を、相対的に見つめることができたことです。海外に出たことで、かえって日本の良さが再認識出来たり、反対にそれまで気づかなかった、日本のおかしさへの理解も深まったように思います。ただ、総括的には、自分が日本人だ、という自覚というか、日本人という集団への帰属意識は、より高まったようにも感じています。

留学よりも限定的だとは思いますが、おそらく海外旅行でも、同じような「気づき」は得られるのではないかと思います。今、若者の海外旅行離れがよく指摘されています。なかなか上向かない景気、先の見えない不安、内向き志向など、原因は様々のようですが、これからの時代を担う人たちにこそ、臆せずに、海外へ、留学や旅に出てもらいたいと思います。世界に視野を広げられるのはもちろんのこと、自分という存在の再認識、隠れた魅力や底力に気づききっかけにもなるのではないかと思います。

気が早いようですが、わが家の3人の男の子たちにも、いずれは、フットワークも軽く海外に出て、見聞を広めてほしい、と願っています。今年も宜しく願います。

JIC 東京 神保 泰興

ひらけ、パスポート。

去年この欄で自分のパスポートを閉じる話をし、4つの国が集まる島をべたべた歩き始めた話をした。そして今回パスポートを再び開く話をする事になったのは「もうこんな終わりの見えない気の遠くなる旅は御免だ」と歩く事を投げ出してしまったからではなく、無事に、少し怪我をしたが無事に島一周を歩き終えたからである。性格上、中途半端に歩くのを残しつつ異国へ飛び立つ事ができなかった。歩くのを一時中断して飛んでいたら旅先の異国で「ああ、まだあと何百キロメートル歩き残ってる」と頭の片隅どころか頭の半分以上で気にかかって仕方がなかっただろう。一時中断ではなく、歩く事自体を全部やめてしまうという選択肢もあったのかもしれない。歩き始めて2日目、3日目くらいに、とんでもなく大変な事を軽い気持ちでやり始めてしまったと思った。そして簡単にやめてしまう事ができなかった理由が、誰かに「やれ」と言われたわけではなく、自分でやってみようと思って始めたから。「しんどい事を命令しやがってアイツめ」と誰かのせいにできればどれだけ簡単に投げ出してしまいう事ができただろう。自分で勝手に決めて、自分で勝手に歩き始めて、全く誰のせいにもできない。自分で決めた生き方に背くなんて、もう自分を生きていない。

仕事を終えて新宿のバスターミナルから夜行バスに乗り、島で歩く。島で歩いて夜行バスに乗り、朝の新宿



撮影地: 徳島

に到着。そこから会社まで歩いて自分の席に着いて仕事を始める。会社と島を往復し、ただひたすらにべ

たべた歩き続けてつないで 1,151 キロメートルのゴールに近づく。するとゴールの先に次の新しい道が延びていた。その道へはまたパスポートを持っていく事にしよう。

2週間後、パスポートを持って飛んだ。サンタがラクダに乗ってやってくるような異国でこれを書きながら思う。「歩いた事で自分の中の何かが変わったのだろうか」と。そんなに大げさには変わらないだろう、、、でも。でもやっぱり少し変わった事を自分が知っている。そしてまだ、歩き続けている。

JIC 東京 金井 義彦

研究体質

あけましておめでとうございます。

ふにゃふにゃの娘と毎日 24 時間ともに過ごした母娘家庭物語に終わりを告げ、約 2 年ぶりに JIC に復帰しました。今でも、家に帰れば、娘と遊んだり出かけたりするのが楽しくてたまりませんが、一人で電車に乗り仕事に出掛ける…そんな毎日また充実しています。

出産後、家にゆっくりいられる時期に何か新しいことを…と、自分で娘の洋服をつくるようになりました。出産のお祝いに手頃なミシンを買ってもらい、それはそれは不細工なあれやこれやを。今考えても恥ずかしい代物ばかり(笑)。自分で買ったミシンならそこで挫折し、ミシンは埃をかぶって骨董化、というのが私らしいシナリオですが、今回はお祝いの品。贈ってくれた方から「何か縫った？」と聞かれて困らないように…という極めて不純な動機で試行錯誤しているうちに、たまたま納得できるものが出来上がったりして、どんどんはまっていきました。そのうち「生地幅を少し広くしてギャザーの分量を多くしたらどうなる？」「ワンサイズ上げるには、どの部分をどのくらい大きくしたらいい？」と色んなハテナが出てきて、その都度ベストを求めて試しました。理科の実験のごとく、市販のお洋服を丁寧に分解し、研究してみたりもしました。もう、小さな子供サイズのお洋服なら、標準のウエストサイズや着丈までそらで言えます(笑)。ここまできたらもうオタクかもしれません。おかげで今では型紙も自作できるまでになりました。ただ、仕事に復帰してからなかなか時間がなくて縫うペースも落ちてしまったのが残念ですが。

また、夫婦 2 人だけのときには手を抜くこともあった日々のごはん。娘ができてからは、味付けや添加物、素材そのものにも少し気を遣い、どんなに疲れていても必ず自炊するようになりました。言い換えれば、今まで無頓着だっただけのことです。調味料をあたかも研究室に並んでいる化学薬品であるかのように配合を色々変えて、美味しい「薄味」を作ったり、お砂糖の種類を変えて味の違いや料理との相性を比べてみたり。おかげで、我が家の台所にはお砂糖が 7、8 種類も…。「こうでないといけない！」と決めてかかると苦痛になるので、かなりゆるーいスタンスで、あくまで楽しんでやっています。だんだん好みの味や、目指していたものに近づいて行くのが楽しくてたまらないのです。今年も暇を見つけては研究の毎日を送ります。

JIC 大阪 小西 章子



よーじやカフェ

インバウンド部の竹村です。皆様、明けましておめでとうございます。

仕事柄、ロシアの旅行者のホテルや観光の手配をしていると、京都の問い合わせがあります。日帰りや、1 泊で京都に行かれた方の多くは、もう少し長く滞在したかった等のご意見をいただきます。趣のある街並みや、歴史を感じることができる京都は、魅了させてくれます。もちろん旅行者の中には、寺や神社嫌いの旅行者もいて、早く京都から出て、東京に帰りたいと言う、気分屋もいます。

そこで今回は、一昨年の年末に行った京都のカフェについて書かせていただきます。銀閣寺を見に行った後、哲学の道を歩いていると、行列ができているお店があったので、近寄ってみました。そこは、よーじやのカフェです。ご存じの方も多いと思いますが、一度見たら忘れられない顔の絵が表紙に描いてある脂取り紙のよーじや。

ちょうど、喉が渴いていたのと、どんなカフェか気になり、30 分ぐらい待って、やっとお店に入りました。建物は古民家風で、畳の上に座り庭園を見ながらお茶をする感じです。メニューを見ると、抹茶ラテのミルクのところに、あの顔がありました。早速、抹茶ミルクを注文して、写真を撮ってしまいました。カフェにいたほとんどの人が、抹茶ラテを注文して、写真を撮っています。日本人から見るとあの顔がかわいいんでしょうね。

そして、それを飲みながら、外国の旅行者がこのお店に来たら、どう感じるか考えてしまいました。席から庭園が見えるのはいいのですが、畳に座るので、長時間は足が大変です。また、抹茶ラテの顔を見て気に入ってくれるかです。お土産に脂取り紙は嵩張らず最適かもしれません。今度、京都に行かれるお客さんにこのカフェを勧めて、反応を見てみたいです。

写真は抹茶ラテと伏見稲荷の JIC の鳥居です。鳥居は探すのにいい運動になりました。

今年は、どこか旅行にでも行って、日本のいいところを見つけてきたいです。本年もよろしくお願いいたします。

JIC 東京 竹村 貢



健康第一！

明けましておめでとうございます。昨年はみなさまに本当にお世話になりました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年は本当にいろいろなことがあり、次から次と話題に事欠かない日々でした。一瞬ひるんで、へこんでしまうことが



多いですが、しばらく時間がたつと、すこしはネタにできるようになるのが不思議です。

いろいろあったなかで、うれしかったことは、父親

とよく話をするようになったことです。父親につきそって行動をするようになるにつれ、自分の若いときの話、母との結婚式の話、やり残したことなどを父は話してくれ、私も自分の話をするようになりました。そのあと実家で荷物を整理していると、父と母の結婚式の写真がでてきて、家族でにぎやかに写真に見入ってしまいました。

一時期、「おはよう」「ただいま」「おやすみ」以外は一切、言葉を交わさなかった親不幸な娘のため、ゆっくり話したのは、久しぶりか、もしかしたら初めてととってもいいほどでした。父のおかげで、長くあつていなかった親戚、初めて会う親戚、遠い親戚とも会うことができました。こんなにたくさん親戚いたんだ！と驚きました。それ以来、連絡を取り合うようになった親戚もいます。みんないい人で、こんな機会でもないと会えなかったかもしれません。

父の体調がわるくなったことは残念なことでしたが、親孝行をするきっかけを得ることもできました。といっても、まだまだ親孝行は足りていません(笑)。父をはじめ、家族が元気なうちに、たくさん家族孝行しよう、と気合いを入れなおしてがんばります。

病院での看護師のみなさんから、いろいろと学ばせていただきました。毅然としていて、とてもきめ細かい対応に清々しい気持ちになります。父の体調が良くなってきたとき、担当医師団のみなさんが誰よりも(私たちよりも?)喜んでくださったのはとても印象に残っています。いろんなことにぶち当たるたび、何をするにも体力と健康が一番だなあと実感します。とりあえず健康なら、なんとかなるのかなと思うようになりました。

私は最近、まともに体を動かしていないので、また運動を始めようかなと思っています。マラソンか、ヨガか、やるからには徹底的に挑戦して、健康第一に元気に過ごしたいと思

います。みなさまが、2013 年、健康で、良き一年を過ごされますことを心より祈っています。

JIC 東京 柳沢昭子

パワーすぽっとの代償

明けましておめでとうございます。

年々、1 年過ぎるのが早く感じています。昨年もとうとう海外旅行には行かずに終わってしまいました。旅行会社で働きながら、あまり動き周ることが好きな性格ではないせいか行きたい気持ちはあってもなかなか行動へと移せないことが多く、そんなことを思いながら 1 年また 1 年と過ぎていきます。

ですが昨年、久しぶりに「アウトドア」をしました。といっても日帰りなのですが、大阪から近場の比叡山へ紅葉を見に行きました。山へ登る、といったことをしたのはほんとに久しぶりだったので、新鮮な感じでした。

京阪電車、ケーブルカー、ロープウェイ、バスなどたくさんの乗り物を乗り継いで、山を歩きお寺を巡って行くと、最近話題のパワースポットというのがこれなのかとわかったような気がしました。

「比叡山」は関西では有名な観光スポットで CM や旅番組などでも度々見かけていたのですが、大阪からこんな近場できれいな場所があるとは行くまで知りませんでした。11 月初旬だったので、紅葉はまだもう少しといった感じでしたが、普段の日常では味わえない体験が久しぶりにでき、改めて、旅行っていいなと感じました。



その日の夜は、家へ着くとすぐに寝てしまい、翌日は足が痛い・・・こんなくらいでマメが・・・普段からいかに歩いてないのか、運動していなかったのかも痛感させられる日帰り旅行となりました(笑)

今年は、もっといろんなところへ出かけ、久しぶりにロシアへ・・・とは無理でも近場の海外旅行へ出かけてみようかと思っています。

最後に、今年も皆様よろしくお願いします。

JIC 大阪 後藤 正明

プチ大掃除で 3000 円!!!

突然ですが、皆さんは昨年大掃除をしましたか? 心機一転、気分良く新年を迎える為には身の回りの掃除や片付けはかせませぬよね。あまり大きな声では言えませんが、ここ数年我が家では年末の大掃除というものを大分さぼっていたのですが、「今回ばかりは久しぶりにやってみよう!!!」と思い、主人と休みが重なったその日に数年ぶりの大掃除を執行する事にしました。

でも、1 日という限られた時間の中でできる箇所なんてほんの一部。普段やらない窓拭きやサッシの掃除、棚などの拭き掃除をやる事に大掃除の意義があるのかもしれませんが、さすがにそこまでは手が届きそうになかったのも、結局は数時間で片付けられそうな押入れや天袋、納戸の収納スペースを片付ける事にしました。

普段は片側しか使わない押入れ。通常開けない方には以前から中身が気になっていた数個の衣装ケースがありました。数年ぶりに開けた衣装ケースの中に入っていた物は、10 年以上前ペテルブルグで主人と知り合った時に彼が着ていたモコモコの冬服が数枚とロシア軍のジャケットが 1 着、滑るのがまだまだ下手だった頃に着ていたスキーウェア、雪中キャンプで良く着ていた防寒着の上下等々。出てきた物全てが主人との懐かしの思い出の品でしたが、今となっちはその思い出も心の中に十分焼き付いているので、まだ着れそうな物に関しては近所のリサイクルショップに持っていく事にしました。

そして次は天袋と納戸の整理。出てきた物と言えばことごとく生活家電の段ボール箱。今後家電を収納する事は一切無いので、結局箱を全部処分しました。するとびっくりする事に、今まで納戸を占領していたすべての物が天袋に納まり、今度は納戸がガラガラになったのでトイレトーパー等のかさばる物をストックするのにとても助かりました!!!

数年ぶりにやった大掃除はほんの一部だけの『プチ大掃除』でしたが、収納スペースが広がったし数年間放置していた衣類やら不要品をリサイクルショップに売りに行く事ができたので、気持的にも空間的にもとってもスッキリしました。本当だったらそのまま捨ててしまっても良いような物でしたが、思い出の品々をリサイクルに出しただけでなんと 3000 円にもなり、『プチ大掃除』の対価としては申し分ないくらいのご褒美となりました(^)v 次回我が家の押入れからお宝が出てくるのは果たして何年後になるのでしょうか(笑)

JIC 東京 白井 真理奈

「はだしのゲン」との出会い

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

私が漫画「はだしのゲン」と出会ったのは、小学校 4、5 年の時でした。作者の中沢啓治氏と母が小学校の同級生だった関係で、

漫画が発行された時に母が買ってきたのだと思いますが、妹と一気に読んでしまったのを覚えています。



小学生だった

私にはかなりショッキングな場面もありましたが、その時は比較的さらっと読み通した記憶があります。

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、「はだしのゲン」とは 中沢氏が広島での自らの被爆体験を描いた漫画で、現在第 10 巻まで刊行されています。世界各国の言語に訳されていて、英語版、フランス語版、ドイツ語版、イタリア語版、朝鮮語版、ロシア語版、スペイン語版、インドネシア語版、タイ語版、エスペラント版、ノルウェー語版が既に刊行されているそうです。

映画化(アニメ版と実写版)やドラマ化もされているので、読んだことはなくても、一度はその名前を耳にした方は多いと思います。

最初に映画化された時には、母に連れられて見に行き、中沢氏ご本人と対面することもできました。

それからかなりの年月が経った去年 8 月 3 日、鎌倉生涯学習センターホールでアニメ「はだしのゲン」とドキュメンタリー「はだしのゲンが見た広島」が上映されるということで、妹と見に行ってきました。

上映中、最初から最後まで胸が詰まり、涙線も緩みっぱなしで、小学生の時に見た時とは明らかに違う感覚でした。これは年齢のせいなのか、それとも母親になって守るべき存在が出来たためなのでしょう。とにかく見ていて本当に辛かったです。

漫画家を引退された中沢氏は、監督さんのお話によると、現在病氣療養中だそうです。メッセージボックスがあったので、お見舞いの言葉に添えて、覚えていらっしゃるかわかりませんが、昔、母と一緒に会ったことを書きました。

それから 3ヶ月後の 11 月、奇しくも広島に行く機会ができたので、原爆ドームを訪れました。久しぶりに見た原爆ドームは、一回り小さくなったように感じました。

JIC 東京 佐藤 早苗

築城 30 年

新年おめでとうございます。

先日ふと目にした記事ですが、東京ディズニーリゾート好調、入園者数増加！とのことです。そういえば、私自身も久しぶりに訪れたばかり。実は私、かの場所にはひとかたならぬ好意、いや、恩義すら感じているのです。

子供の頃の私はキャラクター物への興味ゼロ。アニメ自体は好きでも、グッズやかぶりものの有難味が全くわかりませんでした。あのネズミ、所詮作り物でしょ。という子供にしてはイヤラシクすれた感覚でおりました。

しかし、高校時代に初めてディズニーランドを訪れた時の感動ときたら。なんて力いっぱい、人を楽しませようとしてるんだろう！役になりきりつつも誘導を完璧にこなす、ホスピタリティと熱意あふれるプロの技。遊び心いっぱいのセットの数々。その当時は、場内にはごみ一つ落ちていませんでした。ポップコーンが風に吹かれてぱらぱらと播かれてしまった時のこと。しまった！と思うや、コーンが散らばりきるより前に、突如現れた掃除の方が、ささっと全てのコーンを見事にちりとり収めました。思わず皆で拍手した時の、



ベタもまた楽し

ちょっぴり照れくさそうな、でも誇りに満ちた顔が忘れられません。完璧に作り上げられた異空間で、私はミッキーにも喜んで手をふりました。仮想に遊ぶ、という新たな楽しみに目覚めることが出来たのは、ディズニーランドのおかげです。

さて、今回子供たちのツボにはまったのは、鉄道ルートの一 corner にいるティラノサウルス。大人だけならば特に印象に残らなかっただろう代物です。老若男女に多角的なアピールがあるものよ、と感心していると、帰る前にもう一度乗りたいと。え〜、二度目は楽しみ半減…という大人の感覚を抑えて赴いたところ、夕闇に行くことになった鉄道は先々にランタンがとまり、昼の雰囲気とはまた異なる魅力。子供は暗いジャングルを不安そうに眺めています。楽しみは半減どころか、昼夜の体験で倍増以上のものとなり、幾重もの満足感を胸に客車を後にしました。

来年は開園 30 周年だとか。30 年前にトップの座にいたどれだけのものが、今も地位を保ち続けていることでしょう。野球はサッカーに。自民党は民主党に。東京タワーはスカイツリーに。この移ろいゆく現代において、常にトップであり続けたテーマパークは、今もやっぱり、見所いっぱい、得るものいっぱいの場所なのでした。

JIC 東京 百瀬 智佳子

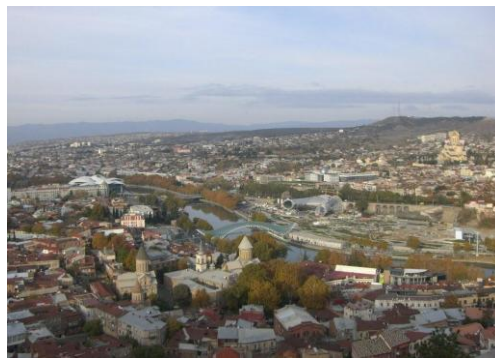
2 回目のグルジア旅行

明けましておめでとうございます。昨年はどういう年を過ごされましたか？

私は昨年も一昨年と同様にグルジアに行ってきました。初めてグルジアを訪れたときは、情報量の少なさから身構えていたのですが、今回は愛着を持っての訪問です。日本からは飛行機の乗り継ぎもあまり良くなく、実際の距離以上に長旅に感じますが、トビリシに着くと、気候の良さも手伝って、なんだかほっとするような感覚になってしまいます。到着後、パスポートコントロールでは、全ての外国籍の入国者にワインの小瓶が「プレゼントよ」と言って渡されました。おもてなし好きのお国柄ですね。

昨年は観光がメインだったので、車での移動がほとんどだったのですが、今回は「自分の足で歩いて、生活したい」と思い、いつもとは違った計画を立てました。アパートを借りて、午前中はグルジア語を少し勉強し、午後は街歩きと観劇を楽しみました。ロシアに留学していた学生時代を思い出すようでした。トビリシではロシア語は問題なく通じて、ロシア語で話しかけても嫌な顔をされることはありません。ただ、街中での表示はグルジア語なので、「文字が読めるようになりたい！」と初めてグルジアを訪れた時から思っていたことなのです。1 週間程ではなんとかアルファベットを覚えた程度ですが、街の看板を見て、見知らぬ場所に来たというのとはなくなり、少し身近になったような気がします。

私が滞在していた期間、バレエ、ミュージカル、日本から



トビリシの風景

の和太鼓コンサートなどいろいろなエンターテインメントがありました。グルジアの観客が日本の和太鼓のコンサートを聞いて非常に盛り上がっ

て「ブラボー」の嵐だったのはとても印象的でしたが、今回、最も楽しみにしていたのは、グルジア国立バレエ団のバレエ「ジゼル」。期待どおり抒情的な演技にほろっと涙が出そうになりました。満席の会場からもため息、そして拍手喝采。日曜日の 15 時開演ということで子供たちもたくさん見に来ていました。舞台を見て目を輝かせる子供たち、この中から将来のバレリーナが生まれるのでしょうか。また、見に来たいなあ、今度はグルジアらしい作品も見たいなああって余韻に浸りながら劇場を去りました。そして、今回も人の温かさや穏やかさに触れた旅の思い出とともに充実した 2012 年を終え、新たな年を迎えました。今年もよろしくお願いいたします。

JIC 東京 中林 英子

昨年を振り返って

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。

昨年はどんな年だったかと振り返ると、人との出会い、再会の年だったように感じます。

まず、1月初めに、ロシア語レッスンの生徒さん(日本人駐在員の奥様)がペテルブルグで女の子を出産されました。私が初めて会った時の赤ちゃんは、とても小さく、静かで、ずっと眠ってばかりでした。それが毎週会う度に、体が少しずつ大きくなり、動きが活発になったと思ったら、いつの間にかハイハイし出し、

「パパ、ママ」と言い出し、つかみ立ちが出来るようになり、今では私が帰る時には必ず「バー、



バー」と言って手を振ってくれるようになりました。何という成長でしょうか。お子さんをお持ちの方にとっては見慣れたことなのかもしれませんが、子供がいない身にとっては、それこそ毎回その子の成長に驚かされっぱなしでした。そして何よりも、その子の無垢な笑顔を見ることが毎週の楽しみとなりました。子供というのは、その場にいただけで周りの人を癒してしまえるのですね。このご家族とももうお別れ。もうすぐ帰国されるのです。どうかご家族にとって素晴らしい年となりますように。

久しぶりに夏に一時帰国した際には、ペテルブルグ音楽院時代の友人数人に、約十年ぶりで再会しました。結婚したばかりの人、出産後もステージで何回転もしているバレリーナ、自分のレッスンルームを運営しつつ、コンサート活動を拡大し続けているピアニスト、子供達や合唱団の指導をしながら、大学講師となった元小学校教諭。実際には会えなかったけれど、連絡を取っていなかったこの数年間に MBA を取得した友人もいました。ロシアに戻ってから再会ムードは続き、道ばたで十数年ぶりに偶然再会した知り合いは、ドイツへ移住する手続きの真っ最中でした。その後も年末まで数人の友人と再会しました。とても印象的だったのが、再会した人みな前向きで、明るくて、パワフルだったことです。環境は違うけれど、それぞれが自分の場所で精一杯自分の道を歩んでいるんだなあ、と感動し、とても大きな勇気と元気をもらいました。

これだけの素晴らしい出会いに感謝しつつ、今年も一日一日を大事に過ごしていけたら、と思います。

JIC サンクト・ペテルブルグ 奥田 美千代

二十数年来のリベンジ！

明けましておめでとうございます。

昨年もたくさんの方のご旅行を手配させていただき、ありがとうございました。帰国されたお客様から「無事帰国しました」「楽しかったです」とご連絡をいただく度に嬉しくなり、仕事の励みとさせていただいております。今年も皆様の旅のお手伝いができるのを楽しみにしています。

私にはもうすぐ2歳になる甥がいます。以前甥に『となりのトトロ』を見せたところ、彼はトトロが叫ぶシーンが怖くて泣きました。でもそれ以外は気に入ったのか、怖いのにまた見たいと催促します。数日後には一人で最後まで見る事ができるようになりました。今ではおやつを食べながら見ることもできるようになり、余裕すら感じられます。

そんな甥の姿を見て、私には幼い頃に怖くて最後まで見る事ができなかったアニメ映画があったことをふと思い出しました。それは、手塚治虫原作の『ユニコ魔法の島へ』です。幼い頃に見た魔法使いククルックと不気味で悲しい生き人形の映像は、よほど恐ろしかったのか、とても強く記憶に残りました。確か4歳か5歳くらいの時に見たような気がします。大人になってからでもその姿をはっきりと思い出すことができるくらいです。

甥のトトロの一件で、私は何だかとても『ユニコ魔法の島へ』が見たくなりました。幼い頃の恐怖を克服すると言ったら大袈裟ですが、「大人になったし、もう一回見てみよう！」とリベンジしてみたくなったのです。

さっそくレンタルショップでDVDを借りてきて、主人と一緒に見まし

た。画面に釘付けのまま、あっという間にエンディングになりました。魔法使いククルックと生き人形は大人になって



台湾でとっても美味しい豆花を食べました

から見てもやっぱり不気味で怖かったのですが、意外とあっさり克服できた(しかも感動して涙まで…)ので拍子抜けしました。小さい頃から延ばし延ばしにしてきた課題をクリアできた様でとても嬉しかったです。

昨年は皆様のおかげで毎日充実しながらお仕事をさせていただきました。ありがとうございました。今年もロシアへ旅行に行く機会がありましたら、是非JICへお気軽にお問い合わせください。皆様のご旅行をお手伝いできるのを楽しみにしております！

JIC 東京 鶴田 ゆり

Aloha～！

みなさん、あけましておめでとうございます！本年もよろしくお願ひいたします。

昨年は世界有数のリゾート地、ハワイへいってきました。

ロシアに 10 数年住み、ヨーロッパの都市にはいくつも旅行をしたことはあるのですが、太陽がキラキラと輝くリゾート地に行ったのはこれが初めてです。これまで旅行といえば美しいヨーロッパの街並みを歩きながら、歴史ある名所をた



どり、芸術や文化に触れることが楽しみでした。しかし、今回のハワイ旅行はこれまでの私の旅行という認識を一変させるものでした。

ホテルからすぐに広がる青い空と(実際私が行った時期は雨期で曇りがちでしたが)青い海、はそれだけで日常と時間を忘れさせてくれます。ショッピングにダイヤモンドヘッド登山、クルー

ジングやシュノーケリングなど各種アクティビティも充実しており、何日でも楽しむことができます。

しかし、ホノルルには何と多くの日本人観光客がいるのでしょう。現地在住の日本人もたくさんいてホテルや街のあちこちで旅のサポートをしてくれます。現地の人の多くも町の中心部には日本語を話せる人がたくさんいて、皆さんとても親切で滞在中困ることはありませんでした。こういった旅行者を受け入れるホスピタリティもハワイが人気の理由の一つなのでしょう。

あと、旅先でよくするのですが、ハワイでも地元のバレエスタジオ(Hawaii State Ballet)でオープンクラスも受けてきました。バレエの動きの名前はすべてフランス語でつけられていて、基本の動きは決まっているため、どの国へ行っても初めてレッスンを受けたとしても困ることはありません。今回受けたのは大人のクラスでしたが全部で 25 人ほどのうち、ほとんどが中・高生くらいのジュニアの生徒でした。ちょうどくるみ割り人形の公演を数日後に控えていたのですが、レッスン中、おしゃべりしたり、途中でやめたりと日本やロシアのレッスンの雰囲気とは全然違って自由でおおらかでした。地元のスタジオを訪れることは、旅行とはちがい現地の人々の生活に少し触れた気になれるので旅先でのレッスンは楽しみにしています。

今回はホノルルのほぼ中心部にしかいきませんでした、あっという間に滞在期間が終わってしまいました。今度はオアフ以外の島にもトライしてみたいです。どうやらやみつきになりそうです。

JIC 大阪 山川 詩保子

ロシアのお笑い長寿番組

新年明けましておめでとうございます。昨年はいろいろあったんですけれども、辛いことより、やはり楽しいことが多かったです。コンサート、劇場、スポーツ大会によく行きましたが、一番印象に残っていることはユーモアのゲームに出席できたことです。

お正月のときに、どこの国でも、テレビでお笑い番組がよく放送されると思います。最近、ロシアテレビでは多くのお笑いゲームやショーが出現しました。その中で、一番人気のある番組は「KVN」だと思います。KVN (ロシア語:KBH) というのは「Клуб весёлых и находчивых」⇒「ユーモア・頓知のある人のクラブ」という意味です。

そのゲームは様々なチームが質問に対しておかしい答えを出して、事前に準備したスケッチを示すことで競争するお笑い番組です。通常、KVN にはロシアとCISの大学生たちが参加します。

ゲームの審判員(よく知られている有名人、俳優、作家)はチームにポイントを与えて勝者を決めます。

KVN は 1961 年 11 月 8 日に初めて放映されましたが、11 年後、ソ連の検閲官は学生の冗談が侮辱的・反ソ連的ジョークだとみなし、KVN の放映を禁止しました。

しかしながら、ペレストロイカの時代にこのプログラムは復活しました。今現在、KVN はロシアテレビで長寿な番組の一つです。Alexander Maslyakov は 1986 年から今まで、KVN の司会者を務めています。年上の世代で、Maslyakov 氏を知らない人はほとんどいないと思います。



ペレストロイカの時、ソ連の移民により、そのゲームはイギリス、イスラエル、ドイツ、などの国にも伝えられました。それらの国では、自分のチーム、リーグを作りました。1992 年から CIS のチームは外国のチームとゲームを行いました。1994 年、イスラエルで第一回 KVN ワールド・フェスティバル

が行われて、そのフェスティバルには 4 つの国のチーム(イスラエル、ロシア、アメリカ、ドイツ)が参加しました。このイベントは、KVN にプレーヤーの新世代を集めました。

多くのロシアお笑い番組の司会者は KVN 出身です。そのプログラムは人気が高いので、特に選挙の前、エリツィン氏やプーチン氏のようなロシアの政治家はよく出席します。

ロシア人ではない場合、ユーモアが分かりにくいかもしれませんが、興味がある方、是非一度見てください。

昨年は本当に皆さまにお世話になりました。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

JIC モスクワ チスティーリナ・イリーナ

マスカレードな夜

11年12月16日午後。バスはラトビアのリガを出発した。目指すはエストニア、タリン。友の住む街だ。

舞踏会に来ませんか？誘われたのは一昨年末のある日のこと。人生で初めてそんな会にお呼ばれした。ある程度は旅慣れしてるし、当地を訪ねるのも2回目だが、いつもと何か違う目的の旅に何故か普段感じない不安が入り混じる。

バスターミナルに着いたのは夕方。曇り空だった。友と再会を果たし、喜びもつかの間、今晚リハーサルがあるから一緒に行こう。間髪いれずなすがままについていく。リハーサルではこの舞踏会を支えるスタッフで初参加の面々が一堂に集い、翌日にせまった本番に備え、踊りの練習をしていた。



ダンスダンスダンス

斯く言う私自身もテレビで見たことしかないような世界に行くにあたって心を整えられる良い機会になった。迎えた当日。初めての蝶ネクタイをし会場へ。舞台となる宮殿では開会に先立ち今回のパーティのイメージであるロシア20世紀初頭の銀の時代を表現し、各所で詩が詠まれたり、当時の曲が演奏されたりし雰囲気を盛り上げる。中には仮面をしたご婦人も。そして時が満ち、高らかにファンファーレが響きわたり盛大に開会した。参加したのは主に現地エストニア人とロシア人が中心で約400人。明らかに見た目がアジア系なのは自分一人だったので、なんだか勝手にアジア代表になった気持ちで粗相しないようにだけ気をつけた。様々な曲調の音楽に合わせ、ダンス・ダンス・ダンス。あっという間の3時間。ぶっ通し必死に踊った。

Time To Say Goodbye が奏でられ始めた。ラストダンスだ。この楽しかったひと時。ずっと続けばいいのにと思わせる瞬間が終わった。盛会で幕を閉じた後、友とその友人たちとカフェで打ち上げをした。ロシア人、ウクライナ人、エストニア人と国籍はバラバラだし、ルーツも様々な環境だが感じた同じ気持ちで盛り上がり、未明までおしゃべりは続いた。

タリン3日目の早朝。寝る間もなくまたバスに飛び乗り、一路エストニア・ナルヴァへ。今日はそこからロシア・イヴァンゴロドへ国境を歩いて渡る。旅はまだ終わらない。

JIC 東京 相澤 進之助

久しぶりの海外旅行

新年明けましておめでとうございます。今年のインフォメーションに今年は子供とともに海外旅行をするという目標を立てたのですが、去年は残念ながら子供と一緒に海外旅行はできませんでした。が、その代わりといっはなんですが、一人で海外旅行に行ってきました！！

会社に勤めていると業種によりいろいろな役得がありますが、旅行会社の社員にとってほとんど唯一の役得は「視察旅行」という名目の、航空会社や旅行会社が企画する「旅行会社社員とその関係者であれば安く行ける」旅行です。しかしそれは日程が悪かったり、シーズンが悪かったりと、通常一般的に旅行商品として販売するには「これはちょっと売れないでしょう」と思われるような旅程・・・私の場合は1泊4日イスタンブールという、『飛んでイスタンブール』というツッコミが入りそうな機中2泊の強行日程、それも「明日から仕事ですよ」という日曜日深夜出発便利用でした。しかし2日目朝イスタンブールに到着してまる2日の観光できるコンパクトで魅力的な旅だと思われました。こんな日程のツアーでしたが、実は参加者30名近く集まる大グループだったのです。私と同じようにコンパクトにイスタンブールを見られることに魅力を感じた人が多かったのでしょうか。

なぜイスタンブールかと言えば、私の友人が行って来た時に「とってもよかった」「ご飯が美味しかった」と言っていて、その時のおみやげのアップルティーの美味しさが忘れられなかったことと、洋の東西がぶつかる場所が気になっていて、以前ハンガリーで感じた独特の雰囲気やブダペストで出会ったちょっとしたデザインなどが気になっていて、トルコだったらどのような雰囲気を感じることができデザインを見ること



イスタンブールの「ブルーモスク」

ができるのか、興味があったのです。しかしまあ場所とかそんなことは、実はどうでも良かったのかもしれませんが。何しろ現在4日間全く1人で誰にも邪魔されずにいられることは、子持ちの身にはそうそうできることではなく、ただイスタンブール1泊4日という言葉に浮き浮きした気分になっていただけかもしれません。

イスタンブールでのまる2日間はすっかり一旅行者として、イスタンブールのいろいろな寺院や博物館を歩きまわり、「トルコ風呂」風スパも体験しました。夕食時はグループの方の何人かと一緒にその日自分の行ってきた場所の情報交換。同行のメンバーは先にも書きましたがみなさん旅行会社関

係の方だったのですが、群れることもなく各人がアクティブに歩きまわり、言葉の壁も適当に乗り越えて目的の場所や物にたどり着き、時間にも遅れることない感じのよい人たちがばかりで、旅行会社勤務の人って素敵だな(手前味噌・・・)と感じたのでした。

旅行後にあらためて思ったことは2つ。1つ目は自分が方向音痴&地図音痴であること(旅行会社勤務としては致命的ですが)。バザールに入ってしまうと自分がどこを向いて進んでいるのか理解できなくなってしまうことが何度あったか、また地下鉄の駅を見つけるのに、地下鉄の駅1つ分ぐらい歩いてしまったこともありました。そしてもう1つは、しかしそれにもかかわらず自分は旅行が好きだったのだと分かったことでした。人を率いて行くには向いていないのかもしれないけれど、イスタンブールでは一人で知らない街を歩き、街を眺めたり人を眺めたり、街の雰囲気を感じたり、美味しい料理を食べたり(時々失敗したり)することに飽きることがありませんでした。久しぶりに旅行をして、やっと自分は旅行が好きだったことを思い出すなんて、全く自分で自分のことをよく理解していなかったとしか思えません。旅は日常を打ち破り、隠されていた自分の願望を際立たせるものなのかもしれませんね。

みなさんも自分の願望をクリアにするために、非日常の世界(旅行)に行ってみてはいかがでしょう? 思い出しついでに、今年こそ(もし子供が望めば)子供と一緒に旅行に行きたいと願うのでした。

JIC 大阪 小原 浩子

最強の言語、最強の都市

昨年、東京へと落ちてきました。入社以来、大阪のオフィスで働いていたのですが、今は東京にいます。落ちてきた、とは奇異な表現かもしれませんが。でも決して、上方である大阪から東京へ東下りしてきた、という、近畿の人間にありがちなライバル心でこう書くのではありません。

東京には特殊な重力があるのです。

私が東京へ異動したのは、サラリーマン的に説明すれば、会社からそういう辞令がでたからです。しかし巨視的には、この都市の持つ恐るべき重力に捕らわれた結果、なのです。まあどっちにしろ、抵抗すると大けがをしたでしょうし、あきらめて落下したところで、やっぱり無傷ではられないほどの高さでした。嘆きましょ、人間ひとりの何と弱いことよ。

もうひとつ報告しておきます。実は私、去年から留学業務の担当に転属になりました。よくよく身の上の変わった一年間です。そこでちょっと質問です。

より多くの情報に触れたい、より沢山の人々と言葉を共有し合えるようになりたい、という動機で、外国語を習得するなら、どちらの言語を学習するのがお勧めですか。

1 英語

2 ロシア語

答えは英語。当然です。日本の義務教育も早くからそう結論付けています。ここでロシア語を推すようないたずら者は、後で恨みを買っても知りませんよ。

なんせ英語は、今の地球上で最強の言語です。どんな外国語でも、使えばそれだけ世界が広がるものですが、英語の場合、この広がり方が、他のどの言語よりも飛躍的なので、仕方ありません。

でも、この冊子の読者の皆様はちゃんとご存知でしょう。最強の言語は、世界をつなぐ絆ではなくて、世界を一色に塗り潰そうとする、きつい絵の具に過ぎないってことを。

世界を一色で塗り潰したらいけないのでしょうか。英語さえあれば、世界のことがほぼわかっちゃうなら、それでいいんじゃないでしょうか。

よくないですね。全然だめです。なぜなら、どんな情報も、発信者に都合よく作られてしまうからです。英語のフィルターを通して見た世界は、英語文化圏の利益が最大になるように演出されているのです。

現代の日本社会で、英語はいかにも世界共通語のように扱われています。だから、英語自体が文化的で優れた道具なんだ、とさえ錯覚してしまうことがあります。すると例えば、英語も通じないなんて遅れた国だ、などという極めて粗暴な言説に触れても、違和感を覚えなくなってきました。英語が通じることが、洗練された社会の必須条件であるかのような、恐ろしい勘違いがまかり通るようになります。いや確かに便利ですよ英語は。でもそれだけの理由でみんなが自発的に英語に染まっていったら、得するのは誰でしょう。英語圏の国々、…今の世界情勢ならもっとはっきり言っちゃってもいいでしょう、米国の思うツボです。

だから、どうですか、違う色の混ざりにくい絵の具も手に入れません。別にそれはスペイン語でも中国語でもいいんですが、ここは JIC インフォメーションの紙面なので、ロシア語を押し売りしておきます。ロシア語は、英語ほどではないですが、世界でも指折りの、強い言語です。

何をもってある言語を強いと呼ぶかは様々基準があるでしょうが、まず、その言語で各分野最新の科学論文が発表できること、それから、世界に影響を与える文学作品を生み出し続けていること、それくらいは最低限必要かと思います。そうでないと、現代文明との接点でどんどん塗りつぶされてしまうからです。ほら、あんなに強かったはずのラテン語は死んでしまいましたね。言語の存亡を決するのは、鮮度を奪い合う戦いです。

ロシア語のフィルターを通じて世界を見ると、ちょくちょく気付くことがあるでしょう。いかに英語の情報が偏っているか、そしてはっきりした敵意がロシアに向けられているかに。

日本にいと、ロシアは世界情勢で悪役を演じているよう

に見えます。本当にそんなに悪い国なんでしょうか。いいえ、圧倒的な量の英語情報が、実態以上にネガティブな烙印を押しているのです。あ、言うまでもないですが「日本にとって」ロシアは敵です。だいいち、領土を不法占拠しています。かつては戦争捕虜を不当な奴隷労働に従事させました。忘れちゃいけません、悪役というには十分すぎる材料がそろっています。

でも「世界にとっても」ロシアが敵であるかという、そこは別の評価をしなければならぬはず。まさか、日本の敵は世界の敵、とまで過激に思いつめているなら仕方ありませんが、日本人の美意識はそこまで傲慢ではないですね。

でも、米国に言わせれば、米国の敵は世界の敵、なのです。彼らはほとんど本気でそう信じています。新年早々、私がさっきからしつこく英語世界に楯突いているのは、それが自浄作用をもたない米国の攻撃手段そのものだからです。

東京にやってきたことで私の生活は激変しました。東京は強い町です。日本最強の都市です。何をもって最強というべきかには色々基準があるでしょうが、まず、経済規模が最大であること、それから人口が最大であること、この二点を満たせば間違いなく最強といえます。しかし東京の場合、単に最強というだけでは足りません、圧倒的に日本最強、なのです。

最強の都市で働くことは、最良の結果をもたらすでしょう。めでたしめでたし。…とはなりません。ならないんです、残念ながら。それは東京が特殊な重力によってその力を増強し、特殊なフィルターによってその姿を維持しているせいです。

東京には日本中からあらゆる富と生産力が集中しています。そうこれは「集中」です。実態として、かなり多くの構成物は、外部から集められてきたのであって、都市自らが創り出してきたのじゃありません。この集めるという行為に関して、東京という都市の持つ力は人の意思の領域をはるかに超えていて、もはや日本人にはコントロール不能な次元にさえます。

構成員でさえ制御できないということは、それは腕力や権力とは違った何かです。誰も逆らえないのに、誰も振りかざすことができない力、私はそれを重力と喩えることにします。

東京が重力で吸い込んだ富や生産力、それは特に人という資源の姿をして日本中の地方都市からやってきます。そうして高所から地上に引き降ろされた人々に対しては、上からフィルターがかけられます。東京という都市は、常に劇場であって、ショーウィンドーの役を演じ続けなければなりません。最も優れたもの、最先端のものはこの都市から生まれ、流行はいつもこの都市から発信され、地方へは遅れて浸透することになっています。東京から来たモノを、常に地方はありがたがり、誰もが飛びつくのが当然のこととされています。その美しい構図を揺るぎないものとするための総仕上げとして、東京には特殊なフィルターが用意されているのです。

大層な言い方をしましたが、この東京フィルターの実像は単純なものです。東京の情報は、それがローカルニュースであっても全国に無理矢理流す、これだけです。逆に、地方に何か優れたモノがあっても、それが東京で報じられることはほとんどありません。地方のよいモノは、東京に吸い込まれたあとでようやく、全国へ大々的に宣伝されます。あたかも東京進出によって箔がついたかのように、あるいは日本初の快挙を東京が成し遂げたかのように。

わが町で起きたことは、何であれ絶対に全国へ報道する価値がある、と主張するような厚かましい地方都市はありません。でも東京に言わせれば、東京のニュースは全国のニュース、なのです。さっきから私がしつこく突つきまわしているのは、それが首都圏の住民にとっては自覚されにくい、収奪の手段そのものだからです。

そんな稚拙なことで何ができるものか、とお思いですか。長年、繰り返し、これをやってきたおかげで今、東京は、一種のテーマパークになっているのです。裏方は目の触れない地方に置いておき、きらびやかな舞台ばかりで作られた、お祭り都市が実現したのです。

すでに成功しているモノ、うまくいくことがわかっているモノは東京にたくさんあります。しかしそれを手にするまでの試行錯誤の経験はこの都市にまるっきり足りません。東京の外で失敗したモノ、落伍したモノは東京までやってこないのですから。

それでいいじゃないか、何がいけないのだ、という人はおそらく、日本の人口が増えるばかりで、東京がどんなに吸い込んでも後から後からまかなえる、そんな旧き良き時代を長く生きすぎたのでしょう。一刻も早く忘れてください。そのような時代はもうやってきません。将来もただ重力に依存しては、このお祭りはそのうち終わってしまうのです。

私たち旅行業者、留学斡旋業者は、この東京という最強の都市で仕事をするとき、最大の利益を期待できます。それは今後も、当分の間は確かなことです。どこよりも裕福な顧客がたくさんいて、ライバルと取り合ってもちゃんと成立するだけの巨大なパイがあるからです。でもこれは、より大きなおサイフから、可能な限り多くの分け前をもらう、というビジネスモデルです。

世の中の漁師が全員、最も豊かな漁場で魚を獲ればずっと幸せでいられるでしょうか。豊かな漁場を一旦出してみると、魚は無限に増えるわけではない、と気づくはず。そこで次の一手を先んじた者だけが、漁場と心中せずにすむのではないのでしょうか。

これまで通り、成功を手にしたお金持ちの顧客は大事にしながらも、同時に私たちは、これから成功するかもしれない誰かと一緒に、大いに悩み、考え、挑戦をするべきなのです。もちろん失敗もあるでしょう。それでも最後まで付き合うのです。なぜなら、これから私たちがどうしても手にしなければ

ばならないのは、顧客との戦略的パートナーシップだからです。戦略的、とは断じて仲良しこよしのお得意さんなどではありません。互いの首筋に刃物を突きつけ合うような、緊張に満ちた関係をこそ、構築するのです。それも、なるべくたくさん相手の相手と。

そのためには、どうにかして東京フィルターの影響下を離れてみなければなりません。先に述べたように、新しいことに対する試行錯誤は、大方、東京の外で終わっているからです。東京の外で、まだ誰もやっていないことの開拓者たちの隊列に加わりましょう。最も初期の段階から、互いの利害を握り合った者にだけ、彼らとビジネスを継続する資格があるのです。東京の外でまいた種は、いずれ東京で収穫をもたらすはずですが、でも東京の中に種をまくことは、この都市の構造上至難のことです。全てにおいて、東京は本丸なのは間違いないですが、そもそも本丸とは最前線から遠いものだからです。

外から東京を見られる場所に、開拓の地を作りましょう。それは別に名古屋でも福岡でもいいのですが、JIC にはもともと大阪事務所があるので、大阪をゴリ押ししておきます。大阪は、東京ほどではないですが強い都市です。日本で第2、世界でも有数の経済規模を持つ京阪神の巨大な都市圏の中心です。大阪にも東京のような重力があって、日本の各地から、富や生産力を吸い込んできた前科があります。しかし大阪は今、吸い込んでいる以上に吸われています。どこから吸われているかは言わずもがなですね。

昨年、東京の上野動物園で飼育されているパンダが出産をしました。ご存知の方は多いでしょう。何しろ全国にニュース速報が流れ、大々的に報道されたのですから。しかし残念なことに、生まれた子パンダはすぐに死んでしまいました。このときも、即座に全国各地へニュース速報が流れ、しばらく騒ぎたてられました。上野動物園は、パンダの自然妊娠、出産に際して、偉大なる試行錯誤を経験したわけですから。

まるで全てが初めてかのようなフィーバーでしたが、冷静に分析するならば、これは東京のローカルニュースに過ぎなかったというべきでしょう。というのも、日本には既に世界でもトップクラスの十分な経験があったからです。パンダの自然妊娠も、出産も、その後立派に成長させることも全て、何度もやったことがあるのです。それは和歌山県にあるアドベンチャーワールドという施設で、パンダの繁殖では中国に劣らぬ技術と実績を有しています。ここでは昨年もまた双子が生まれました。うち1頭は無事に育ち、現在9頭ものパンダファミリーが和歌山で見られるという状態です。しかしそれらの情報は見事なまでにスルーされました。

そもそも生後間もないパンダの子が死んでしまうのはよくあることらしいですし、上野動物園が経験豊富な和歌山に教えを請うべきだったとも思いません。注目すべきは、東京

のメディアの恐ろしいほど見事な空気の読みっぷりです。東京のお祭りを盛り上げるためなら、些細なことでも無理矢理に全国を巻き込む一方、東京以外で培われた経験やその達成物に対しては信じがたいほど冷淡な態度を取るのです。東京というテーマパークの雰囲気には、少しも水を差すことは許されません。そのためなら、ずいぶん露骨なこともためらいなく行われてしまいます。

ちょっと昔の話、1980年代前半には、鉄道駅への自動改札機の導入の話題がメディアを賑わせていました。テレビでは、スタジオへ本物の自動改札機を持ち込んで、ああでもないこうでもないと実験や議論を繰り返しているところさえ目撃しました。その頃私はまだ5歳くらいの子供でしたが、この様子が不思議でなりませんでした。なぜなら、私の住んでいた大阪では、すっかり自動改札が導入済みだったからです。(有人改札は、当時の大阪では利用者も少ない国鉄にしか残っていませんでした。)目の前のメディアで繰り広げられているような試行錯誤は、日本社会ではとくに経験済みのはずだったのです。



父に疑問をぶつけると、回答は明快でした。

「日本の中心は東京。でも、東京にはまだ自動改札が全然ない。東京にないものは日本にないのと同じことなんだ。」



もちろん、東京のメディアが大阪に自動改札が普及している事実を知らなかったはずがありません。わかっているのに、こんな子供にもわかる茶番をもう一度演じて、

全国に発信する必要があったのです。

東京フィルターの傘の外側で生まれ育った者は、幼いうちからごく自然に東京の危うさを意識するようになります。あの中に入ってしまうと、外のことにはまるっきり鈍になってしまうのではないかと、そしてそうなったことに自ら気づくことさえも、できないのではないかと。

私は東京への転勤に先立って、ひとつの決断を下しました。単身赴任です。結婚3年目の妻と、当時1歳の娘は岡山県へ移り住ませることにしました。悩み浅からぬものがありましたが、さまざまな理由で東京では子育てをしないことに決めたのです。そして私自身、東京に長く住むつもりはありません。(つもりはない、と言ったところで、実際にはサラリー

東京はやさしい街です。そのやさしさはいつも、自らの演じるテーマパークとしての姿を裏切らないために、内向きに発揮されます。そのやさしさのおかげで、東京の住民はいつでも、自分たちが日本で最良の豊かさと、最高の先進性と、最善の文化を享受していると信じることができます。でも、そのやさしさの正体は、(これはいかにも地方のひがみつばい言い方になりますが、)日本中から上澄みをすくい取って、いいところ取りをして築き上げたことを、見えにくくしてあげる「配慮」だったのです。それは、先にも言ったように、日本が常に人口増を前提とした成長戦略を描けるときにしか継続できないシステムです。

モスクワに住む友人が、ある時つぶやいた言葉が忘れられません。

「大好きだったモスクワの、いいところからなくなっていく。」

私はこれほどモスクワの魅力を鋭く描きだした言葉をほかに知りません。モスクワはいつでも住民に対して残酷な都市で、だからこそ人の心を掴むのです。やさしさなんかありません。不完全なところを隠さず(あるいは隠し切れず)、どんどん変化しながら住民と一緒に成長していく都市は魅力的です。モスクワにも強い重力とフィルターがありますが、なんとなく破れ目があって、そこから覗くと、モスクワ自身の姿を外から眺めてみることができます。

東京もいつかこういう残酷さを身につけられるでしょうか。東京がそのテーマパーク性を(破綻する前に)自ら捨てる決断をできたなら、きっと中からも外からも、姿が見える都市になるでしょう。そのときには私も考えを変えて、一生、住み続けることを検討するかもしれません。

私達は常に何らかのフィルターの下にいます。しかしどんな分野でも、最強のものには注意せねばなりません。近年の世界に覆いかぶさりつつあるのは、グローバリズムというフィルターです。それは確かに便利で合理的で、最強の価値観になろうとしています。今やグローバル化という言葉はあらゆるところで耳にしますね。一方、最近だんだん聞かなくなったのが国際化という言葉です。

グローバル化と国際化、似ているようで全然違います。前者は人、モノ、カネを全て共通のルールで動かそうとする価値観で、世界は統一に向かいます。後者は、異なるもの、文化、思想が入り乱れた社会を許容しようとする価値観で、世界は多様化へ向かうのです。

どちらが人類の幸せをもたらすかは知りません。でも私たちがどちらの肩を持つべきかなら、はっきりしています。旅行にも、留学にも、人々をいざなうことができるのは多様な世界だけなのでから。

JIC 東京 岡本健裕

＊＊JICのロシア語留学・研修＊＊

23年間の実績「だから、JICのロシア語留学」

JIC ロシア語留学研修は、JIC 国際親善交流センターが日本で最初に旧ソ連・ロシアの諸大学と直接契約により開始した私費留学システムです。この23年間でJICがロシアに送り出した留学生は長期・短期合わせて2,300名以上にのぼります。

安心の現地アフターケア

留学中はできる限り自分のことは自分でやっていただくのが語学力上達の道です。しかし、自分ではどうしても解決できない大学との交渉ごとや、緊急事態の際の連絡対応など、留学される皆様のバックアップするために、JICでは各受入機関と緊密な連絡体制を整えています。

ロシア語長期留学4月生・募集中



**締切間近です
今すぐお申込みを!**

期間：2013年4月1日より10ヶ月
締切：2013年1月18日(金)

モスクワ国立大学 601,000 円(授業料 10ヶ月)

サンクト・ペテルブルグ国立大学 617,000 円(授業料 10ヶ月)

※上記の金額以外に別途、寮費、手配料、渡航費用、ビザ代金及び取得手数料などがかります。

◆JIC ロシア留学デスク◆

ロシア留学・旅行のお問合せ・ご相談に応じます。
お気軽にお越しください。

東京事務所 平日 10-18 時 03-3355-7294/7295

大阪デスク 平日 10-15 時 06-6944-2341

※事前にご予約ください

1～4月の予定

2013年 1月7日 新年営業開始

1月18日 長期留学4月出発生申込み締切

3月上旬 長期留学4月生 事前説明会(東京・大阪)

4月上旬 長期留学4月生 出発

4月上旬 JIC 東京 ロシア語講座 前期スタート!

4月上旬 JIC 大阪 ロシア語講座 前期スタート!

最新情報は JIC のホームページに随時掲載いたします。

その他のロシア情報も満載です!!

ぜひホームページをご覧ください!!

